



リモートで総合学習の課題研究に協力



群馬地本高崎地域事務所（所長・土屋3陸尉）は県立高崎女子高校の「総合的学習の時間」の一環として、同校から依頼があった「課題研究」に協力した。探求授業を希望した生徒のテーマである「海外での自衛隊の医療活動・感染症」について、自衛隊中央病院との調整により、リモートによる質疑応答・懇談形式を実現した。

探求授業を希望したのは、同校2年生2名と1年生1名の3名の生徒達で、生徒達は「海外での自衛隊の医療活動・感染症」にした理由について、「日本では当たり前のように医療が受けられるが、紛争地域・災害が起きてしまった地域での医療実態と感染症との関係性」について学びたかったからだという。インタビューは、自衛隊中央病院の黒住1尉（第9次イラク復興支援群に参加）と群馬地本高崎地域事務所土屋3尉（第10次イラク復興支援群に参加）が事前の質問内容に回答する形式で行った。

質問は自衛隊の海外派遣先での活動と医療支援に関する10項目で「派遣先での仕事内容・感想」「現地の人は怪我をして、それを治す薬がないからそこから感染症が広がっていくと考えられるがどうなのか」等々の質問に丁寧にそして真摯に回答をしていた。

黒住1尉は、「派遣先の地域では、医療の提供と合わせて防疫の実施がとても効果を発揮します。個人ができる感染対策として、うがい手洗いは特に効果的なので、普段から実施してほしい」と話してくれた。課題研究のインタビュー終了後、派遣先での活動に更に興味を抱いてくれた生徒達は、自衛隊の仕事についても更に多く質問してくれた。

懇談を終えた生徒は、「現在医療に携わる仕事に就く目標を持っているので、防衛医科大学校も一つの選択肢として考えたい。」と語ってくれた。

群馬地本ではコロナ禍でも総合的学習等の要望があればリモートなどの非接触で参加できる場面を提供し、自衛隊の魅力と活動への理解を深めたい。

